参考資料 『戦艦ポチョムキン』の視聴ポイント

1． 表現内容と表現テクニックの「一部のポイント」解説

- ■ 全体として|「モンタージュ」なので、一つ一つのショットやシーンだけでなく、ショットとショット、シーンとシーンがどのように「つなげられ」「何が表現されているのか」が注目ポイントになる
- ■ 冒頭|岸壁に打ちつける波 激動のイメージを暗示させる
  - ● 以後、何かが大きく激しく動くという、躍動感を感じさせるショットが頻出する
- ■ 01:34|仰ぎ見る方向からのショット
  - ● 以後、水平に話者の顔を写す構図は、モンタージュシーン以外にはそれほど多くないことに留意
- ■ 01:45|単にハンモックを多数撮影しているというシーンのみならず、様々角度からの構図と相まってハンモックが複雑な映像の構図を構成していることに留意 （＝意図的）
- ■ 04:36|モンタージュによる効果を狙ったシーンが初めて現れる
- ■ 04:54|以後、船外のシーンも、戦艦の複雑な構造＋多数の船員の複雑な動き＋カメラの位置 の組み合わせにより、非常に複雑な画像の構図を構成していることに留意してほしい
- ■ 7:50|遠景と近接の構図のショットを交互に繰り返すことで、どんな印象を受けるか考えてみて下さい
- ■ 8:40|ここまでのショットもその傾向があるのですが、短いショットの連続によりどのような印象を受けるか考えてみて下さい、以後頻出します
- ■ 9:03|以後のスープのショットの使い方に注目
- ■ 13:15|顔のアップと手元の連続繰り返しのショット
- ■ 14:03|皿を床に投げつける一瞬のシーンだが、異なる構図の数ショットを使っている＋モンタージュという複雑な構成
  - ● モンタージュ効果は単独で使われるわけではなく、他の表現との組み合わせた複合表現！
- ■ 14:43|以後しばらく艦上の整然とした構図（これまでの複雑なそれとは対称的）
- ■ 16:09|単にモンタージュであるのみならず、登場人物が特定の方向を示すショット＋マストの繰り返しという複合的な表現
- ■ 21:32|神父と十字架 死を暗示
- ■ 21:40|射殺前の緊張を表現するショットの数々静的なショットの数々
- ■ 23:27|これまでのショットと対称的な、暴動の混乱がどのように表現されているのか？
- ■ 30:20|躍動から静寂へ
- ■ 35:23|再び「静かな躍動」へ
- ■ 38:32|「静寂」しかしメッセージは力強い
- ■ 39:53|再び躍動へ、メッセージの実現へ
- ■ 47:49|赤い旗（赤は共産主義のシンボルカラー）
- ■ 48:00|ここから有名な「オデッサの階段」シーン
- ■ 54:44|ライオンの像は何を象徴するのか？
- ■ 1:10:37|「絵」の構図に注目